

生物多様性についてのタケダの考え方

概要

タケダは、科学主導の企業として、生物多様性が環境、人の健康、経済にとって非常に重要であると認識しています。私たちが呼吸する空気、食べるもの、飲む水、そして私たちが頼る医薬品は、健全な生態系に依存しています。¹植物、動物、菌類、微生物が適度に多様性を保って生息しなければ、生態系は回復力を失い、劣化し、崩壊する恐れがあります。²人の健康を増進し、世界の未来をより明るくすることに取り組むグローバルバイオ医薬品企業として、タケダは次のことを約束します。

- 人間の健康と環境の健康との間に明確な関連性があることを認識します。
- 生態系と生物多様性の繁栄は、地球上のすべての生命を支える「自然資本」、すなわち生息地、および自然のプロセスを維持するために不可欠であることを認識します。
- 私たちのビジネスが自然環境に与える潜在的な影響を評価し、生物多様性保全の推進に向けた取り組みを支援することに努めます。

背景

生物多様性とは、植物、動物、菌類、微生物など、地球上に存在するさまざまな生物種のことを指します。自然界では、生物は互いに、また生物以外の環境と共生しながら生態系を形成し、多くの財やサービスを提供しており、人類や他のすべての種がこれらに大きく依存しています。³世界の国内総生産(GDP)の合計の半分以上が、中程度または高度に自然に依存していると推定

¹ WHO (2015年6月2日) 参考文献「私たちの生活は健全な地球に依存している」(Our lives depend on a healthy planet): https://www.who.int/health-topics/climate-change#tab=tab_1

² IPBES (2019年) 参考文献「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」<https://ipbes.net/global-assessment>

³ IPBES (2019年) 参考文献「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」<https://ipbes.net/global-assessment>

されます。⁴

生物多様性は現在、厳しい状況に置かれています。「生物多様性生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム」によると、生物多様性と生態系の健全性は、世界で、人類史上かつてない勢いで失われています。これにより世界の経済、食糧供給、安全保障、健康、生活の質の基盤が崩れつつあります。こうした損失は、気候変動によって加速する一方で、主に生息地の破壊、汚染、資源の乱獲、外来種の持ち込みによって引き起こされると考えられています。科学界は一致団結して、生物多様性の損失を減速、停止、逆転させ、自然を回復させるために早急に行動をとる必要があることを表明しています。⁵

タケダの視点

環境ステewardシップは、タケダの企業理念に組み込まれ、行動の指針となっています。生物多様性の損失により、生態系が損なわれ、きれいな水や食料、レクリエーション、人の健康と幸福に貢献するその他のサービスが提供されなくなった場合、人の健康に深刻な影響がもたらされます。民間部門は、健全な生物多様性と活力ある生態系から利益を享受する一方で、生物多様性の損失と生態系の健全性の低下に対する責任を共有しています。したがって、タケダは、民間部門が自然の保全と回復において重要な役割を担っていると考えています。私たちは、当社のビジネスが生物多様性に与える潜在的な影響を理解して、影響を最小化するとともに、事業を通じて生物多様性保全を推進する取り組みを支援することに取り組んでいます。

タケダのこれまでの活動

- 武田の全世界の製造拠点で生物多様性のリスク評価を実施。この評価には、当社施設周辺で生物多様性が脅かされている地域、または保護対象地域が存在するとの想定のもと、リスクのスクリーニングを行うとともに、事業場の活動による生物多様性への潜在的な影響を調査することが含まれます。
 - 京都薬用植物園の維持管理。⁶ここでは、3,000種以上の植物が育てられており、絶滅の危機に瀕している植物も含まれます。植物園は、生物多様性を保護し、科学者にこれらの薬用植物を研究する機会を提供し、健康増進や病気と闘うための新しい方法を発見する目的で、80年以上前に設立されました。
- 生物多様性の保護と回復を目指す地域のイニシアチブを促進。例えば、スイスの

⁴ WEF (2021年6月21日)「環境の未来」参考文献「気候変動と自然の損失との闘いが相互に関連している根拠を示す新報告」
<https://www.weforum.org/agenda/2021/06/new-report-shows-biodiversity-key-to-fighting-climate-change/>

⁵ IPBES (2019年) 参考文献「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」<https://ipbes.net/global-assessment>

⁶ タケダ (2022年)「将来の世代のために植物多様性を保護する」(Safeguarding Plant Diversity for Future Generations)
<https://www.takeda.com/our-stories/caring/Safeguarding-Plant-Diversity-for-Future-Generations/>

ヌーシャテルの当社施設に従業員菜園と蜜蜂の巣箱、オーストリアのウィーンの施設に昆虫ホテルと蜜蜂の巣箱を設置しているほか、オーストリアのリンツの施設、オーストリアのオルトの施設ではコミュニティガーデンを維持し、ベルギーのレシーヌにある施設では 240 本の木を植樹しています。

これからも、生物多様性や、当社の事業と重要な生態系との相互作用について理解を深めていきます。私たちの取り組みは、回避、最小化、修復、相殺という、広く受け入れられている緩和のヒエラルキーに沿ったものです。

まとめ

タケダは、活気あふれる生態系を生み出す健全な生物多様性と、地球上のすべての生命の健全性との間に重要なつながりがあることを認識しています。生物多様性の損失の脅威を、減速、停止、逆転させなければなりません。タケダは、ビジネス活動とバリューチェーンが生物多様性に与える全体的な影響をよりよく理解するとともに、責任あるやり方で、敬意をもって自然環境を管理する適切な行動をとることを約束します。

タケダについて

タケダは、日本に本社を置き、自らの企業理念に基づき患者さんを中心に考えるというバリュー（価値観）を根幹とする、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーです。「すべての患者さんのために、ともに働く仲間のために、いのちを育む地球のために」という約束を胸に、革新的な医薬品を創薬し、提供し続ける未来を目指します。研究開発においては、免疫と炎症性疾患の専門知識を駆使して、腫瘍学、希少遺伝学・血液学、神経科学、消化器病学(GI)の4つの治療領域の研究調査活動に注力しています。また、血漿由来の治療法とワクチンに的を絞った研究開発投資にも注力しています。

2023年3月